はー、今日も疲れたな…。
ったく、残業続きで嫌になるぜ。

最近全然面白いことないしな…
久しぶりに今からパーっと飲みにでもいくか？

そんなことを考えていると、ふと向こうに
スマホらしきものが落ちているのを発見する。

こんなところに…誰か落としたのか？

俺は一応誰も見ていないことを確認してから
ふとそれを拾い上げる。

どこにでもあるシンプルな普通のスマホだが
色がパールピンクなので恐らく女が使っていたものとみられる。

落とした持ち主は……居なさそうだな

俺はあたりを見回して、スマホを探しているようなしぐさをしている人がいないかチェックする。
だが、誰もそんな仕草を見せる様子はない。

……丁度いい　これを今日の暇つぶし道具にでもすっか

まぁつまんないもんだったらこの辺りに放っておけばいいしな

そう考えた俺は、周りに見つからないようそっと懐にしまったのだった。

家に帰ると、早速俺は電話がかかってきても鳴らないよう一度電源を切っていたスマホの電源を再度入れた。すると、案の定ロックがかかっていた。

チッ…ロックか……まあ当たり前だよなぁ…んと　どうすっかな～　一応適当に打ち込んでみるか…

何度か無難そうな暗証番号を打ち込んでみるが、ヒットしない。

うーん…やっぱだめか？せっかく面白そうなおもちゃ見つけたのにな…ゴロか何かか？

だとしたら…うーん　よろしく(４６４９)とか？だめだな　エロ路線で言ってみっか？さすがに女だしそんなことやらないと思うけどな…

そうだな　例えば…イクイク(1919)…なんてな…
はは　当たるわけな……

…はっ？

さすがに俺は声を出してしまった。
まさか、と思っていたこの数字でロックが解除されたのだ。

マジかよ…こんなゴロで空くとか　ビッチか？

俺は驚きとともに
短時間でロックを解除できたことに喜びをかみしめる。

まあ　せっかく開いたんだ
中身を拝見すっか…どれどれ？

まずはL○○Eを除く。
どんな人間か、手っとりばやく確認するためだ。

すると、友達とのやり取りで
勉強だったり試験だったりのワードが出てきた。
どうやら学生のようだ。

女学生のスマホか？
へへ　こいつはとんでもなくいいものを見つけたなぁ…

そのままL○NEを開いていると、男とのやり取りが見つかる。
どうやら男の名前はこれだけのようだ。

もしかして彼氏か…？
興味あるなぁ…年頃の女の彼氏とのやり取り

どれどれ……んん！？

俺は先ほどスマホのロックを解除した時よりも比べ物にならないくらいのトーンで思わず声を出してしまった。

何と、その彼と思われるやり取りの中にこのスマホの持ち主であるエロ画像や動画が沢山残っていたからだ。

こりゃなんつーか…とんでもなくやばいな…

だが俺の好奇心はおさまらなかった。そのままその写真や動画を見ていく。

……

俺は見るたびに言葉を失う。そのやり取りは、学生らしからぬ、えげつないやり取りだったからだ。

まず彼がハメ撮り好きなようで、2人のセックス動画を撮影したり写真を撮ったりしたのち今日も気持ちよかったよと彼女にその動画や写真をわざわざ送り付けていた。

そしてたまにオマンコ見せて？やオナニー見せて？等と要求すれば、女の方からオマンコの接写画像やオナニー動画を送ったりしていたようだ。

そのやり取りをくまなく閲覧し、興奮した俺はそれでついでに一発抜いてしまっていた。

……ふぅ　これ　どうすっかな

ちょっとした面白い写真でもあれば暇つぶしになるなと期待はしたが、それ以上のものを手にしてさすがにどうすればいいのか判断に困った。

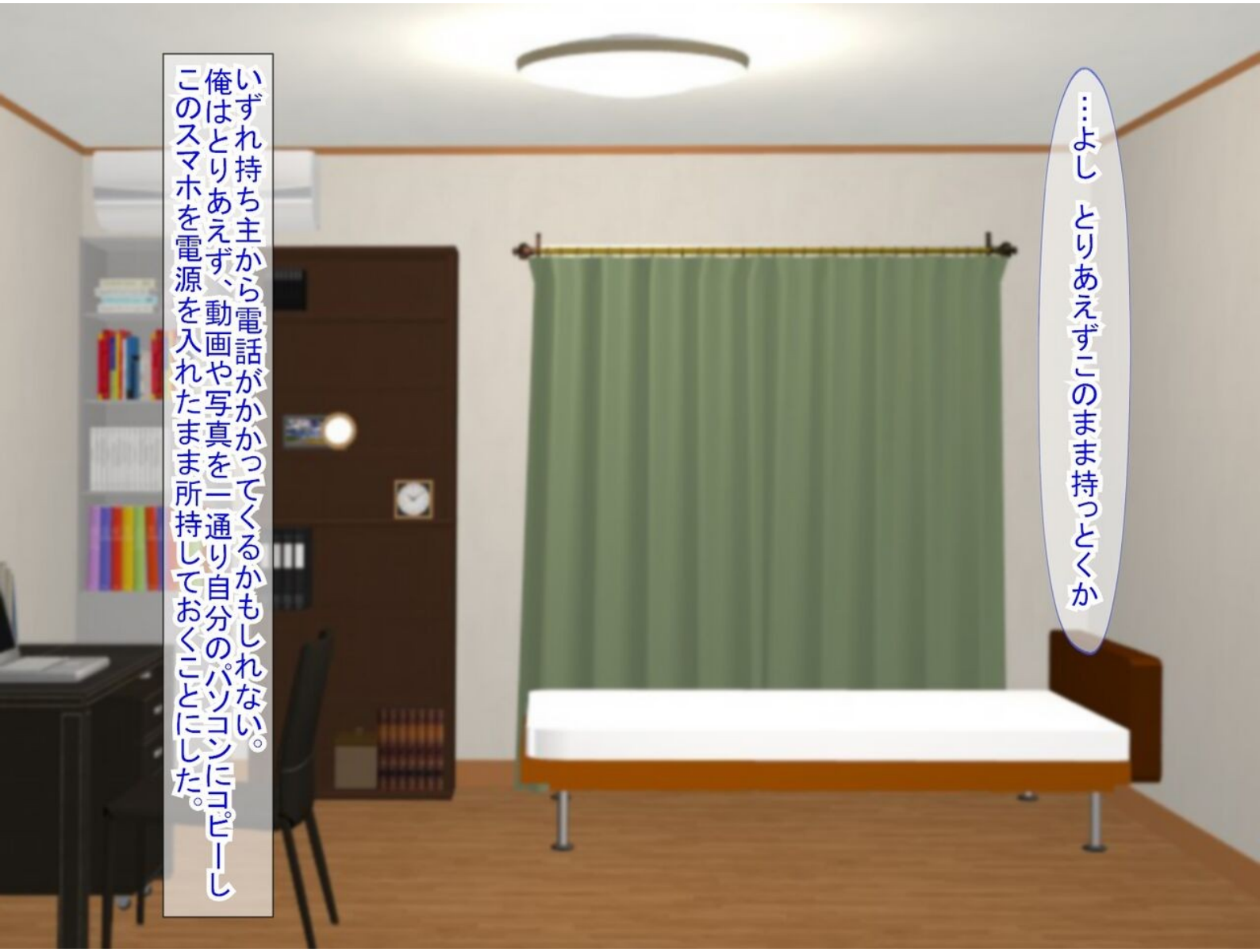
逆に、これを落とした女は顔面蒼白だろう。
中にこんな画像が入っているのだから。

……

まぁ、警察に届出されたりしても面倒だし
とりあえずこの写真や動画をコピーしといて指紋消して
何喰わぬ顔で駅に置いておくのがいいだろうが
俺はもう一つの妙案を思いついていた。

……これ使って上手くやればこの娘とSEXできねぇかな？

リスクはある。だが、それくらいこの持ち主の女も
かなり可愛い娘だった。若いからという理由もあるが
俺が出会った中で1、2位を争う上玉だろう。


…よし　とりあえずこのまま持っとくか
いずれ持ち主から電話がかかってくるかもしれない。
俺はとりあえず、動画や写真を一通り自分のパソコンにコピーし
このスマホを電源を入れたまま所持しておくことにした。

すると、約15分後。着信があった。
見るところによると、おそらく公衆電話のようだ。

もしもし？

俺はなるべく明るめな声色で応対する。
すると、相手は持ち主と思われる若い女の声だった。

あ　あの…このスマホを落とした本人ですけど…

ああ…落とした方ですか？ついさっき駅で拾ったんですけど丁度交番に届けようとしていたところだったんですよ

俺は、あくまで親切な男のふりをして応対する。

あ　そうなんですね…やっぱり駅で…
えっと…あの…ありがとうございます…

そのスマホ　私のなので
返して頂けないでしょうか？

いいですよ　それじゃあどこで待ち合わせします？
スマホの落ちていた〇〇駅でもいいですけど
目印になるものがないですし…

…その近くに小さな公園あるの知ってます？
そこで待ち合わせしませんか？

はい　大丈夫です　分かります
よろしくお願いします

電話の向こうの少女は、始めは不安げだったが俺の優しい対応にすっかり安心していたようだった。

わかりました　では向かいますので…
そうですね　大体21時頃に

俺は電話を切る。その顔はすでにほくそ笑んでいた。

ふふ…かかったな…

相手はおそらく油断しているだろうから
何の準備もなく来るだろう。そしてこの写真や動画のことを
ネタにゆすれば完璧だ。

くく　今日はいい日になりそうだぜ…

そして、予定の時間に待ち合わせ場所の公園へと到着した。
この公園を指定したのは、駅に目印がないという理由からではなく、人があまり居ないからだ。

すると、ハメ撮り写真に写っていた女がすぐそこで待っていた。

ここですぐ声をかけると不自然なので
一応知らないふりをしてお互い目が合い、『そうかな？』
といったしぐさを互いに示し合わせてから近づく。

あ あの…スマホを拾って頂いた方ですか？
はい…えっと アナタが持ち主の方ですか？
このスマホで間違いないですよね？
俺がスマホを見せると、女はホッと安堵した様子を見せた。

よかったです…鞄に入れたつもりが何かの拍子に落ちたらしくて…
忙しかったのでその後も全然スマホ見れてなくてそれで気づくのも遅れて…
そうなんですね……
俺は一応周りに誰もいないことを確認してからついに彼女の心を揺さぶる一言を発することにした。

……その間にどんどん時間が過ぎて行って
中のハメ撮り写真なんて見られたら まずいですもんね
っ！？
その瞬間、彼女の顔が一瞬にして引きつった。
思わずのその変化を動画に収めたいくらい、顕著なものだった。
……み 見たんですか？
まぁね

でもどうして…
ちゃんとロックかけてたのに…
そりゃ何度か試してりゃ解除できるでしょ
それに　ゴロで設定するのは良くないよね～
つーか　暗証番号が1919ってさ…
どんだけ淫乱なんだよってw
そ　それは彼が勝手に……

いやぁ…すごかったなぁ あの写真や動画…
今こうして君と話してると
あんな淫乱な女に豹変するって全然思えないもんな
や やめて…言わないで…
何なら今ここで再生してあげよっか？
えっと…一番やばそうなのは…っと

っ！　か　返してください！

俺は、動画を再生させると彼女にスマホを見せつける。
すると、彼女は電光石火のごとく瞬時に奪い取るようにして
スマホを手に取り、動画を閉じた。

最低ですね……！
そんなことして　ただで済むと思ってるんですか？

へぇ…警察にでも行こうっていうの？
ふーん…

俺にそんな口を効いていいのかなぁ…
俺は自分のスマホを取り出し、バックアップしておいた写真を彼女に見せつける。
！？
……このスマホだけじゃないよ
家のパソコンにもバックアップ取ってあるからね
えっ……？！
女の顔が、ますます顔面蒼白になっていく。
この世の終わりでも見たような顔だ。

最低です…！
それで何しようっていうんですか？
何するって…分かってるだろ？
動画であんなに淫乱にしてる娘が
初心そうに聞くなよ
……っ
リホは俺をにらみつける。しかし俺は表情を変えない。

で どうする？俺についてくるか？
……一度だけですからね…それで絶対に消してください
ああ わかったよ
なわけないだろ？俺が満足するまで楽しませてもらうぜ…

そして俺達は近くのラブホテルにやって来た。

途中で逃げ出すんじゃないかと多少気を張っていたがここまで素直についてきた。

やはり、ハメ撮り写真や動画の事が効いているらしい。

ただ終始、リホは俺を睨むようにして見ていた。俺の質問にも最低限にしか答えない。

…今に俺のチンコでその表情を淫乱なものに変えてやるさ　あの動画のようにな…

リホの顔を見ながら、俺はそうほくそ笑んでいた。それくらい俺には自信があったからだ。

そして早速俺達はベッドで行為を始める。
へぇ 見た時から中々あると思ってたけど触ってみるとこりゃまた…
おいおい そんなこと言える立場かって 分かってる？
んっ…や やめて くださ…っ
そ それは……

画像や衣服越しでは現実味に欠けていたがいざ触ってみると想像以上の心地よさを覚える。
大きさも、弾力も、そして触っている時のリホの反応も、何もかもが良かった。
おっ 乳首勃ってきた…
なに 感じてるの？会ったばっかの男の手で？
そんな こと…ない です…

…正直に言わないと『例のアレ』のことが公になっちゃうけど良いの？
あれ　顔にモザイクとか無いから簡単に身元特定されちゃうけど？
…っ！
仕方ないなぁ…そんじゃとっとと切り上げて投稿準備でも――

……です…
ん？
その…胸 触られて…
気持ちよく なって…ます…っ！

…なんだ　言えるじゃん
そんじゃほら　もっと気持ちよくなって
えっ…あっ！
俺はリホの耳を甘噛みし舌を這わせ、乳首をコリコリと捏ね回す。

リホは最初こそ声を出さないように口を閉じていたが
次第に甘い声が漏れ始めてくる
ふっ…んっ…はっ　あっ…
感じてきてんじゃん　良いことだ
でもさ　そっちだけ気持ちよくなるのは
都合良すぎない？

あっ…ふぇ…？
俺のもさ ちょっとやってみせてよ
アレみたいに…さ？

こ これが…？
なんだよ 男のモノなんて見るの初めてじゃないだろ？なーに清楚ぶってんだよ
とは言うが、実際リホがどうして俺のモノを見て動揺しているか分かり切っていた。

スマホにハメ撮り動画も入っていたのだが
そこに彼氏のチンコも当然映っていた。
アレと比べれば俺のは明らかに大きい。
リホが動揺しているのは『男のモノ』というより
『俺のモノ』に対してだろう
さ ほら 扱いて扱いて
アレみたいにさ
や やりますから…言わないで…っ

真っ赤な顔をして俺のモノに手を添えるリホ。
きっと彼以外の物を触ったことがないのだろう。
俺のチンコの形を確かめるように、ゆっくりと扱いている。
んっ…んっ…
だが、しばらくしても
なかなかその手の動きは変わらない。
なんだ？動画の動きとは全く違うじゃないか

リホちゃん…アレに比べて動作が緩慢じゃない？
…っ
アレとはもちろん、彼のチンコをしごいている動画だ。リホは嫌そうに顔をしかめた。
どうやってしごいてたか俺がちゃんと言わないと思いだせない？

いやらしい顔して　彼のチンコをシコシコさせてたじゃない
両手使ったりして　亀頭や裏筋にカリも触ったりしてさ
わ…わかりました　わかりました…
から…言わないで下さい…
俺がそう煽ると、恥ずかしいのか
徐々に動画のような慣れた手つきになっていく。

はっ はぁ…
この人のおちんちん やっぱり大きい…それに熱くて 硬い…
彼女の手つきは、風俗嬢と大して変わりなく
年相応とは思えないほど慣れたものだった。
実際どれだけ彼氏とシているのかは分からないが
それなりに経験は積んでいるようだ。

であれば、このまま手でされて果ててはもったいない。
この辺でやめて、色々と楽しませてもらおう。
んー…リホちゃんさぁ
ちょっとこれでイくのは難しいなぁ
え…でも いつもは…

あのね　今日の相手は彼氏さんじゃなくて俺なわけだから『いつも』は通用しないの
……
んでもって　手でイけないなら次に何すれば良いか　分かってるよね？
それ　は……

リホがどこまで経験済みかは動画で一通り理解している。
だから俺は躊躇なく行為を選択し要求できる。
わ…わかりました……
そして、リホもまた俺が何を要求しているのか悟り
俯きながらそれに応じるのだった。

あー 良いわぁ…やっぱ人とするときは最低フェラからだよな
手コキなんて一人でも味わえる感触だし そう思わない？
ちゅ…ふむっ…そんな 分からない です…ちゅ…
手コキ以上の行為、それすなわちフェラ。リホは俺のモノを丁寧に舐めまわした。

モノ全体に舌を這わせたあと、ぱくりと先端を咥え先端を口に含んだまま、裏筋をチロチロと舐め始める。

それはれっきとしたフェラであり、リホの中でちゃんと攻めに転じようと決めたのだろうと感じられた。

ぅあ…んだよ
ちゃんとできんじゃん…

ちゅ れろ れろぉ…
あむっ ちゅるる…

っは　こりゃすごいや…
めちゃくちゃ良い拾い物したわ…っ
想像以上のテクニックと、事前に手コキでこみ上げてきたものが俺に快感を煽らせる。そしてその瞬間は直後に訪れた。
も　出る…
ちゃんと　受け止めろ　よ…っ！

俺のモノから勢いよく出される白濁液。
リホは口内発射から逃げようと口を離すが
一歩遅れてしまい、舌と顔面で受け止めることとなる。
ん…んんんっ！！

ふぁ…こんな量　見たことない…
へぇ　彼氏はこんなんじゃないんだ
量も少ないし
こんなにドロドロしてないです
……あっ

まぁまぁ 内容ぜーんぶ知ってるんだから 良いじゃない
それより やっとそっちから まともな答え返ってきたなって
そ それは…
んじゃ その調子で 次いってみよっか

決まってるだろ？動画の内容を目の前でコンプしてもらわないと
てなわけで次は……
次…？

やぁ…見ない でぇ…あんっ…
んなこと言っても
この絶景を見ない男はいないでしょ
俺が次に命じたのはオナニー。
単なるエロ自撮りの次に撮影量が多かったこともあり
今回の呼び出しで絶対見たいと思っていたものだ。

リホは嫌々ながらも自分に拒否権なんてないことを分かっているため、ゆっくりと局部を弄り始める。
…んっ　はぁ…あぁ…っ
手慣れてるね…ってまぁ当然か普段からあんなの送ってるんだもんね
…っ！
いつもそうやっていつもオナニーして画像や動画送ってるの？

あぁ　スマホに全部記録は残ってるから
皆まで言う必要なかったね
俺が見てるこの位置にスマホ置いて
いつもそうやってオマンコ見せつけてんだろ？
いや…っ！言わないで…っ
ん　ふぁぁぁ…！
それでも行為は止まることなく続き
次第にくちゅくちゅと水音が響くようになる。

くちゅくちゅ音だして…いやらしいね
すごい感じてんじゃん
ちがい ます……
動画もくちゅくちゅさせて愛液だしてたけど
今日は特にでてるんじゃない？
俺の舐めてて興奮しちゃったのか？
そう煽るように尋ねれば
リホは真っ赤な顔をして首をブンブンと振る。

だが、そこからが長かった。
自撮りオナニー動画は大体1分弱くらいの長さだったのに
倍以上かけても中々イこうとしない
……ねぇ　俺の前でイってみてよ
彼氏の前やカメラの前ではイけるんだから
できるでしょ？
それは…んっ
ほんと に…いや…っ！！
リホの中で譲れない一線なのだろうか
ここに来て初めて明確な拒絶を見せてくる。

指の動かし方も気付けば音が鳴る程度には動かすものの緩やかな動きになっていた。
このまま時間を稼いでホテルの時間が切れるのを待つ算段なのか それとも単にイくとこを見せたくないのか…
…はぁ 仕方ないか

俺はため息をついていったん席を外し
ホテルに備え付けの電マを取り出す。
リホは俺が持ってきたものの意味に気付いて拒否するように
首を横に振るが、俺はその抵抗を振り払うように
手をどかさせて局部に押し当てる。

やっ…それ　やぁ…！
だって指じゃいつまでたってもイかないからさ
なら　俺が手伝うしかないだろ？

やっ…あぁぁ！
スイッチをオンにした瞬間
リホは初めて明確な喘ぎ声を発した。
電マの位置がちょうどクリの
辺りにあったためだろうか
身体をガクガクと震わせている。
やんぁ　あぁぁぁ！！

気持ちよさそうだねー
そうそう 最初からそうしてれば
良かったんだよ
あっ やっ んぁぁ
とめ てぇぇぇ！！
止めて？いやいや何言ってるんだよ
ちゃんとイくとこ見せてってば
やっ あっ らめ くる きちゃう…！

次第にリホの口から言葉がなくなっていき
喘ぎ声だけになる。
ただ、その中で混じって聞こえたセリフを
俺は聞き逃さなかった。
そして俺は最後の一押しと言わんばかりに
振動を最大にしてクリに電マを押し当て――。

――あっ やっ らめ イく…イっちゃ…
あうううううううう！！！！！
快楽に絶叫しながら
激しく潮を吹いて絶頂するリホ。
今まで我慢していた分が一気にこみ上げたのだろうか
画像や動画以上に盛大な絶頂だった。

いやー　派手にイったねぇ
気持ちよかった？
はぁ…はぁ…んっ　はぁ…
おまんこびしょびしょだね
これじゃ服着れないじゃん…

しゃーない
手伝ってやるよ　お掃除
そう言って俺はリホの姿勢をマングリがえしにさせ
その濡れたまんこを舌でクンニし愛液を口に含む。
あっ！？あぁぁ　あああぁぁっっ！

半ば流れでさせられたとはいえ卑猥なポーズを取らされたことに恥じらうリホ。
はぅ あ あぁ…
いや そこ…んんっ…
しかし絶頂後に余韻に浸る間もなく与えられる快感に再び喘ぐことしかできない

いやじゃない だろ？
こんなに濡らして…変態
へんたい…なんか じゃ…
んぁぁぁ…！
溢れる愛液を敢えて音を立てて飲みながら煽ると
リホは必死に喘ぎ声を堪え否定しながらも
身体をビクビクと震わせる。

そこで俺は試しにと、舌を中にゆっくりと入れていく
ふぁぁぁ……な なか…入って…
ひゃう あ あぁ そこ…！
じゅる じゅるる…
れろ れろれろぉ…
ひゃぁ らめ そこ やぁ んぁ…
イく また イっちゃう…！

徐々にこみ上げる絶頂感に震えるリホ。
だが俺は手を抜くことなく攻め続け
そしてラストスパートと言わんばかりに
突起弄りや中弄りを強くする
あっ あっ！
もらめ また イく イく…

いや…あああぁぁぁっ！！！！！
『ぷしゃ、ぷしゃぁぁぁ』と音を立てて潮を吹き絶頂するリホ。
俺の顔面はびしょびしょとなる。
それを指摘しようとして、リホが二度の絶頂で
朦朧としているのがわかった。
そこで俺は、呼び出した時から
狙っていた行為に移ることを決める

ねぇ ここまで来たんだし
最後まで良いよね？挿れるよ？
はぁ…はぁ…
うっし 否定無し
イコール同意ってことで
そして俺は自分のモノをリホの中に
挿入する。もちろん、生でだ。

リホも入れられるまでは朦朧として
いたが、入ってきたときの感触で察した
のだろう。顔色を青白くしてガバッと顔を上げる
え 今 入れ…！？

うん ほら 見てみ？入ってるでしょ…
って 入れられてる側なら見なくても分かるか
ぬ 抜いてください…！
今日私 危険日で…！
え…？
…へぇ 危険日 ねぇ
そりゃ良いこと聞いちゃった

ちょうど良いや
孕むまでやってこーぜ　リホちゃん？
二度の絶頂ですっかりと行為モードに
なっているリホの中は俺のモノを
食べるように絡みついてくる。
そのまま腰を前に突き出すと
俺のモノの先端がリホの最奥を突く。

ひぁ！あぁぁぁっ！
その瞬間、リホから今までにない声が漏れる。
どうやら彼氏との行為ではここまで達していなかったようだ
はっ…あぁ んぁぁ…！！
俺の おっきいから
ここまで届くんだわ
彼氏のとは違うだろ？

…って 答えられないよな
気持ち良すぎて
そんじゃま 続き続き
俺は腰を激しく前後に動かし
卑猥な水音と乾いた破裂音を
響かせながら何度も最奥を突く。
その度にリホは楽器の様に喘ぎ声で鳴き
二つの音と混じって淫靡な雰囲気を
作り上げる。

俺はこの行為の中で、徐々にリホが理性を失っていくのを感じていた。
その証拠に、最初は終始嫌々だったのに今では声を抑えることなく喘いでいる。
あと少しで堕ちる。そう直感したのは、間違いでは無いだろう

体位をバックに変え行為を続ける俺。
体位を変えたことで当たる位置が変わったのかリホの喘ぎ方はさらに激しくなる
あっ んぁ あぁぁ…！！
ふっ んっ…ほんとマジで良いわさいこー

どして…イかないんですかぁ…！
ん？
彼氏…すぐイくのにぃ…！

あぁ なるほど…
そりゃ 単に彼氏が早漏だからだろ
俺はそこらへんのとは違うんだよ…っ！
俺が彼氏と違って
中々イかないことを疑問に思っていたようだった。
ひぅん！！！
んんんっ！！！

それはつまり、リホは
彼氏以外の男を知らないということ。
その手の女は二人目の男のほうがテクが良ければ
簡単に堕ちやすいことはよく知っている。
特にリホのような女ならなおさらだ
ひゃ
はぅ
んぁ
あぁぁぁぁ…!!

こりゃマジで堕ちるの時間の問題かもな…
にしても…これ マジで中良すぎ…
ずっとこうしてたいわ…
過去に何人かと身体を交えたことはあったが
正直ここまで快楽を覚えられる相手はいなかった。

よく漫画やAVで『俺達身体の相性良いみたい』
といった典型的なNTRセリフをよく聞くが
あれを実感する日が来るとは思わなかった。
そしてそれはおそらくリホにとっても同じ意見だろう。
すっかり恥じらいを覚えることなく快楽に溺れて喘ぎ続け
どことなくうっとりとした顔つきになっている

はぁ…はぁ…なぁ　ちょっと…
はっ　あぁ　んぁ　な　なん　です　か…あぁっ❤
ぶっちゃけ彼氏とするときと俺とするとき　どっちのほうが良い？
そん　なの　わから　な…あっ　あっあ❤

会話の最中でも遠慮なく絶頂するリホ。
さすがに話にならないと思い少しだけ速度を緩めながら
会話を再開する
なあ どうなんだよ？
彼氏みたいな早漏と違って俺のは良いだろ？
はぁ…あぅ ほん とに…
わから な…

…じゃあ嘘でも良いから
一回言ってみろよ
え…
ほら
『彼氏のより貴方のほうが気持ち良いです』って
そしたらもっと良くなれるぜ？
…そんな…こと
ほら　言ってみ？
それともあの写真
ばらまかれたいのか？

はぁ…はぁ…良い
あなたの おちん ちん…気持ち良い…
です……
リホの口からその言葉が出たのと同時にピストンを速くする。
リホは口に出して俺との行為を良いと言ったせいかより喘ぎ声が激しく大きくなっていた。
んぁぁぁぁ！！！

よし　言えたご褒美だ
思い切り中に出してやるよ
えっ？やめてっ！
お願い　中だけはっ……！
彼とだって一度も中に
出したことないんですっ
こんなにマンコ締め付けてきておきながら
やめるわけねえだろ？
お前のマンコは中に出して欲しそうにしてるぜ？
違います！
やめてっ！
赤ちゃんできちゃう！

おら だすぞっ！
いや あぁぁぁぁぁぁぁぁっ❤❤

はぁ…はぁ…
ふー…めちゃくちゃ気持ち良かったぜ
お前もイッたのか？
はは　オマンコビクビクしてるじゃねえか
よし　初めての中出し記念として
しっかり写真撮っておかないとな

うう……
中に出されちゃった…どうしよう　妊娠なんてしたら…
チッ　なに泣いてんだよ
一発中に出したくらいで妊娠するわけねえだろ？
それともう一発中に出して欲しいのか？

それは嫌です…
お願いですから　これで　もう…
そうだな…と言いたいところだが　気が変わった
その態度が気に食わないからもう少し関係を続けさせろ
え　そんな…一回きりって…！
1回で俺を満足させなかったお前が悪いんだよ
最後そんな風に泣かれてみろよ
せっかくの気持ち良さが全部台無しだぜ

ご　ごめんなさい…
分かりました　次はちゃんとしますから
それで最後にしてください…
ふふ　やめるわけないだろ？
俺のチンコを心から欲しがるまで何度も続けてやるよ

それからも事あるごとに理由をつけて何度も関係を持った。
あんっ！あぁっ！あんっ　あっあ❤

ホントお前　バック好きだよな
そんなことあるんだよ
バックにすると締め付けが半端ねえんだから
あんっ　あっあっあ❤
そんなことっ…
そ　それは…あんっ　あんっ
オチンチンが奥を突くからっ

5回会ってヤッたあたりから、リホの様子が少し変わっていった。
最初は終わる度にこれで最後、これで最後という風にしつこくて
色々理由をつけて伸ばしていたのだが、それを言わなくなってきた。

俺を満足させる為に何も言わなくなったのか、それとも諦めが付いたのか、あるいはこの快楽に気づき始めているのか。いずれにしてもこのまま関係を続けられるのは良好だ。
まあ、でもこの気持ち良さを手放したくないっていうのが理由であって欲しいな
実際に回を増すごとに、リホのオマンコは気持ちよくなっていった。それはオマンコそのものが気持ちよくなったというよりはだんだんと俺のチンコを受け入れるようになったからだろう。

リホがそうなってしまうくらい俺とリホの身体の相性はバッチリでこの女もそれは分かっているような様子だ。
ほら　今日3発目イクぞっ！
あああぁぁぁぁあっ！！！

一方、彼氏とリホの関係は……
……リホ　おはよう
今日の放課後なんだけどさ…
…ごめん　今日もバイトがあるから…
そうか…なら仕方ないか…
うん　ごめんね？

そう言って、俺と他に雑談するわけでもなくさっさと自分の机に向かってしまうリホ。

…はぁ なんか最近のリホ 冷たいよな…

あれは大体一か月くらい前だっただろうか。いつものように朝一緒に登校した時、リホは妙に落ち込んでる感じだった。

その前日に別れる前は凄く楽しそうにしていたのだけど…。そんな様子のリホを初めてみたので、何があったのか聞いてみたが家の事情でと言って教えてくれなかった。

そしてその夕方から突然バイトを始めたと言って一人で帰ってしまい、翌日からも、朝用事があるという事で一緒に登校しなくなった。

家の事情という事で急にバイトを始めたという事はおそらくリホの家族に何かあって、金銭的な問題が生じたのかもしれないし、それだと俺は何も言う事が出来ない。

…はぁ にしても これはさすがに辛いな…

俺とリホは付き合って大体半年以上経っているのだがラブラブといっても過言ではないくらいだった。

最初はお互い初心な状態だったが初めてリホとエッチをした時を境に毎日のようにエッチしていた。

リホが魅力的すぎるのもあったのだが、それまで俺は童貞でずっとエッチしたい願望があったからそれが爆発していたと思う。

そして可愛いリホをもっと独占したいという気持ちからオナニー用に彼女にエッチな画像を撮ってもらうようにお願いしたり、ハメ撮り動画や画像もたくさん撮ったりした。

リホは少し嫌がっていたりもしたが、俺のお願いを聞いてくれて送ってくれたり許可してくれていた。

くっ…こんな時にエッチの事を考えるとか俺最悪だな…でも やっぱりリホとはエッチしたい…

あの1か月前を境に一度もできてない。何度か誘ってみたが、やはりバイトが忙しかったり女の子の日だとかで断られていた。

今のところお昼休みに少し話す事やLOOE上でメッセージのやり取り位はできてはいるが以前よりも格段に機会は減った。

もちろん少しだけオナニー動画をお願いしてみたがバイトで疲れているということで送ってくれなかった。

あんなに毎日していたエッチが急にストップしハメ撮りの動画や画像で性欲を紛らわしていたがそれもそろそろ限界になってきた。

はぁ…早くリホとエッチしたいな…

一方、リホの心境は……

はぁ……

学校を出た私は、あまり学校の人達に会わないようにするために隣町のカフェへと来ていた。家に帰っても良かったが、彼に万が一見つかってしまう可能性も考えた。

彼にはバイトと言って放課後一緒に帰るのを断っているがバイトなんて言うのはその口実でしかなく本当はバイトなんてしていない。一緒に帰ったら自然とエッチな流れになるのは分かっていたのでそれを避けたかっただけだ。

別にあの人から彼とエッチするなと言われているわけではない。だけど、あの人とエッチしてからなんだか後ろめたくなってしまって彼とできなかった。

元々エッチは彼を満足させる行為だと思っていたし
全く気持ちよくなかったとは言わないけど、正直オナニーの方が
気持ち良かったので特別したいわけでもなかったから
なおさらかもしれない。

…でもそれだけじゃないよね
きっと私　彼とエッチするのが怖いんだ…

初めて彼とエッチしてから何度もしていたので
彼のオチンチンの感覚もエッチの事も覚えている。
それとあの人とするエッチの気持ち良さには明らかな
差があった。

性行為は彼を満足させるだけの行為だったはずなのに
その行為がオナニー以上の快楽を感じる事ができるのだと
いう事を、すごく嫌だけどあの人との行為で知ってしまった。

今きっと彼とエッチしてしまったら、完全に彼との気持ちが離れてしまうと思っている。でもエッチをいつまでも避けるわけにはいかないし、そんなことならもう別れてしまった方が…なんて事さえ考えてしまっている状態だ。

どうにかしてオナニーであの人の気持ち良さの代わりにならないかと、通販で大きめのディルドを買ってオナニーしてみたがあの人とのエッチの方がはるかに気持ち良かった。

私は認めたくないけど、Mだ。彼にはよくハメ撮り画像を送るように言われていたが気は進まなかったものの、本当はそれを見た彼がエッチだねと反応を返してくれる事に興奮を覚えていたのも事実だ。

だからあの人のオチンチンやテクだけじゃなく更にあの人の非情な言葉責めが私をより興奮させてしまっているのだと気づいた。

彼はあそこまで私を言葉責めにはできないし
もし彼がそうなったとしても私は彼が頑張っているだけと
違和感を感じてしまうだけだろう。

そんなことを考えていると、彼からメッセージが届いた。
『仕事終わった。いつもの公園で待て』といった簡素なものだ。

そのメッセージを見た私は、不覚にもアソコが少し熱くなって
濡れるのを感じてしまった。

こんな扱いをされて普通なら怒るはずなのに
メッセージをすぐさま見てスタンプを返してしまう。
自分の行動をもし誰かが客観的にその事実を知ったなら
きっと彼に依存しているように見えてしまうのだろうか。

いっそのことあの人が早く私の事を諦めてくれないかな…

そしていつもの公園で待ち合わせしいつものラブホテルへと入った。
今日はやけに返事が早かったじゃないか
えっ…たまたまカフェに居て暇だっただけです
この人 こういうところも鋭いな……
ふーん…

これは そろそろ頃合いかもしれないな
…まあ別にどうでもいいけどな
どうせ今日でもう終わりにしようと思ってたから
……えっ？そうなんですか？
ん？なんか悲しそうにしてないか？
そんなこと…ないですけど
どういった心境の変化なんですか？
あれだけ次も次もってしつこかったのに…

別に深い意味はない
ただ飽きただけだ
えっ…？
んだよ　いつまでも俺が
満足してるとでも思ったのか？
お前はいつも嫌々言いながら受け身で豚みたいに
喘ぐだけで何もしないじゃねえか
それがもう飽きたんだよ

そうなんですか…
それは良かったです

本当に終わる気なんだ…
確かにさっき喫茶店でこの人に今の関係をもう
諦めてくれないかななんて考えてたけど
まさかいきなりだなんて…

ふふ　平静を装っているけど
悲しそうにしているのがバレバレだな…

俺に依存しかけている所でいきなり関係を打ち切られ
突然の事に戸惑いながらも必死で俺に対抗しようとしている
いったところだろう。

そんな様子が浅ましくて笑い転げたくなってしまう。

ほら　つーわけだからさっさとするぞ
今日で最後だからいつも以上に犯しつくしてやるよ
せいぜい豚のように鳴くんだな
…そんな風には鳴きません
えっ…いつも以上って　アレよりも今日は凄いの…？
そう否定しつつも、リホはどことなく期待した様子だ。
したくてたまらないのだろう。どうしようもないメス豚だ。

手始めにパイズリを命令する。
リホの胸はそこそこ大きいからパイズリもなかなか悪くない。
んっ…ん…
ふふ　今日はなんか
少し積極的じゃねえか？
そんな事ありません…

リホはそう言っているが、いつもよりもわずかに動きが積極的だ。
やっぱり今日終わるのが内心では嫌なんだろうな
いくら隠そうとしていても、行動には意図せず表れてしまうものだ。
んっ…ん

っ……
彼女の積極的な責めを受け、俺は思わず声を漏らす。
マジで今日は気持ちいいな…
いつもこれくらいに積極的にやってりゃ俺ももっと満足してたのによ
いつもは途中でやめて挿れるとこだが、このまま出したい気持ちになってくる。

あー マジで今日はすげえな
ほら まず一発出すぞっ！
んんっ…！

一発出したところで、俺のチンコが満足するわけがない。
俺はリホの服を脱がし、リホの大好きなバックで挿入する。
んあぁぁっ…❤
んだよ　濡れてんじゃねえか
パイズリしながら
俺のチンコを期待してたのか？
ん　んんっ…違いますっ…

言いながらオマンコをキュウキュウ締め付けてくるので
全く説得力がない。このところはずっとこんな感じで
口だけ否定している状態だ。
今日はいい加減こいつの本音を聞きだしてやる
終える気なんてサラサラないが
リホは今日で終わると思っているだろう。

だからこそ今日が勝負だと思った俺は、限界までコイツを犯すために腕を掴む形でロックし、奥まで何度も突き上げる。
あんっ あぁっ❤ あっあっ❤んあぁっ！
もう何度もセックスしているから、既にリホの感じるポイントは熟知している。そこを突いてやると、予想通りの反応を返してくれる。

ほら　気持ちいいか？
今日で終わりなんだからイキそうなら
我慢せずにイッちまえよ
あんっ　あっあ❤
やっ　あんっあっあ❤
本当にいつも以上に激しい…いつも凄かったのに
あれは本気じゃなかったの？
こんなのされ続けたら絶対におかしくなっちゃうっ…！

リホは返事をしないが、それでも沢山オマンコを締め付けてくるところを見るとこのまま素直にイク様子だ。

いやっ ひぁぁっ❤い イクッ…
あああぁぁっ❤❤❤
はは もうイキやがったな
あんなに俺とのセックスを嫌がっていたのに
先にイクとかどんだけ淫乱なんだよ

リホがイッても俺はペースを落とすことなく
お構いなしに突きまくる。
ビクビクと痙攣したオマンコが驚いたように更に震える。
ひぁっ❤い いやっ…
だ だめっ…あんっ あっあ❤
あ?こんなに潮吹きながら
マン汁垂らして ビクビク締め付けてきて
何がダメなんだよ?
だ ダメッ…あっ あぁっ あっあ❤

本当にやめて…これ以上は絶対に壊れちゃうっ…！
リホのオマンコはこれ以上ないくらいに震えていて俺のチンコに最高の気持ち良さを与えてくる。
元々コイツのマンコは手放したくないくらいに気持ちいいがそれ以上に気持ちよくされては更に手放したくなくなってしまう。
これは何が何でも完全に俺のものにしないとな今日は絶対にコイツと彼氏の間を完全に引き裂いてやる

いつもなら既に射精をしてしまうところだが
限界まで射精のコントロールをしながら
嫌々言っているリホのオマンコを何度も何度も突きまくる。
ひ あっ！あっ！
お゛ お゛お゛っ！お゛お゛ぉ…お゛！
何度も潮を吹く様子を無視して限界まで犯していると
どんどんリホの声からその容姿に似つかわしくない声が漏れだす。

はは なんだ？本当に豚のように鳴いてんじゃねえか
いや 豚以上の情けない声だな もはや珍獣だ
おっ おおっ おっ おっ
おおっ おっ
もう何も考えられない…こんなに気持ちいいの味わったことない…
これが終わるなんて考えたくない…

この様子を見て俺は完全にリホが俺のチンポに堕ちたと確信した。
この上ない征服欲で満たされた俺は、射精することを決める。
ほら だすぞっ！
お前のような獣には思い切りぶっかけてやる
んほぉぉぉぉぉぉっ♥♥♥♥♥

はぁ はぁ…まだ終わらないぜ
今日は最後だから本気やるって言ったからな…
俺はそのまま射精した直後にすぐさまリホの膣内に挿れる。
まさかすぐ入ってくると思っていなかったのか
生きた魚のようにビクンと身体が跳ねる。
おっおおお…！
んぉお♥おお♥おおっ♥

そうして何度もリホをこれでもかという程に犯し
リホの完全に堕ちた顔を拝みながらフィニッシュする為に
最後は正常位で激しく突く。

そして再び顔を合わせたリホの顔は
挿れる前の強がる面影は一切なく
完全に快楽に飲み込まれた一匹の雌と化していた。

おっ〝おおっ〝おっ〝おっお〝❤❤

身体の反応もそれに応じて敏感になっており、俺が一突きする度に絶頂しているかのようにきゅうきゅうと締め付けてくる。
おおっ おっ おおっ おっ❤❤
リホは身体だけでなく心まで俺に堕ちたようだ。その証拠に、足をしっかりと俺の後ろに回して抱き寄せる所謂『だいしゅきホールド』をしている。

ははは　さっきから顔を合わせながら突きまくってんのに
だらしない顔で相変わらず獣のように泣いてんじゃねえか
『そんな風には鳴きません』
って言ってたのにな
しかも足まで俺に絡めてきて
そんなにコレが欲しいのか？
欲しいなら　何を言うかわかってるよな？

おっ おっおっ❤ 気持ちいいっ❤
気持ちいいからっ❤ アナタのチンポが欲しいのぉ❤❤❤
ふふ 心の底からようやく認めたようだな でも残念だったな 今日でもう終わりだ
いやっ❤ 辞めないでっ❤ アナタのおチンポずっと欲しいっ❤ こんなのもう終わりなんて無理なのぉ❤

なら俺の心に響くように懇願してみろよ
そうしたら考えてやる
おっ〝 おっ〝おっ〝お〝❤
アナタに一生尽くしますっ❤
彼とも別れますからっ❤
おっ〝 おっ〝お〝❤どうかこのメス豚に
アナタのおチンポをくださいっ❤
はは なんだよ ちゃんと懇願できるじゃねえか
彼とは本当にもう別れるんだな？俺に服従を誓うか？

は はいっ おっ おぉ おっお❤
アナタに服従を誓いますっ❤
彼のオチンチンじゃ絶対に
満足できないからもう彼はどうでもいいのぉ❤
よし なら今後も関係を続けてやる
せいぜいそうして獣のように鳴くんだぞ
は はいいっ❤
おっ おっお❤
ありがとうございますっ❤

あれだけ俺の事を嫌がっていた女が俺に完全に屈服するのは
こんなに心地が良いものなんだな
これまで生きてきて、これ以上の気持ちを
味わったことがあっただろうか。
この上なく興奮した俺は、このまま中出しを決める。
おらっ！ラストスパートだ！
今度は中に出してやるよ！

おっ　おっおっお❤
下さいっ❤アナタの精液　たくさん
中に注いで私に種付けしてくださいっ❤
リホは心から俺に中出しを懇願し、足が更にギュッと締まり
俺を離さない。
イクぞっ！子宮がパンパンに
なるまでたっぷり注いでやるっ！

一際強く突くと、俺は達して白濁液を放つ。
ほぼ同時にリホも絶頂し、潮を吹き勢いよく俺のモノを締め付け白濁液を一滴残らず搾り取ろうとする。
イ イックウッ♥♥♥♥
おほおおおおおっ♥♥♥

はぁ…はぁ…はぁ…
はは いい眺めだな
ほら 写真撮るぞ はいチーズ…っと
放心状態でベッドにねるリホのあられもない姿を
リホのスマホで撮影する俺。
マンコから精液を垂らしている様子を
様々なアングルで撮影していく。

えっと　彼氏とのやり取りは…
…っと　お　あったあった

リホと彼氏とのやり取りのページを開き
早速今撮影した画像を添付する。

文面…そうだなぁ…
ここは変に凝るよりストレートに書いた方が良いか…

『新しい彼氏ができました❤
あなたよりおっきいおちんちんでズポズポしてもらって
中出しまでしてもらったの❤』

『あなたのオチンチンは小さいし気持ちよくないし
もうしたいと思えないから、私とは別れてね』

『これからはこの優しいお兄さんにいっぱい
気持ちよくしてもらうから❤もう私には話しかけないでね』

…っと　こんな感じで良いか

直前のやり取りから呼び方や口調を真似て
それらしい文章を打ち込み送信する。

すると割と早めに既読がつき
『どういう事なんだよ』といった慌てた文面とともに
何回か着信が来たが、鬱陶しいので全部無視してブロックした。

今頃この元カレは突然の事態で発狂していることだろう。
そんな光景を想像するだけで更に気分が良くなった。

さて…まだ部屋の時間は残ってるか…
ほら　呆けてるなよ
まだやりたいことが山ほどあるんだ
はぅ…あっ…んっ…
ピンと胸の先端を指で弾けば
反射的に身体を震わせ反応するリホ。
ただ、その姿には、もう俺に反抗するリホの面影は
完全になくなっていた

さてと…あと何発くらいできるかな
せっかくだし 送り付け用じゃなくて自分用のハメ撮りでもしてみるか
結局ホテルの時間ギリギリまで行為は続いた。中出しも何回もして、リホの中に俺という存在を刻み込む。
俺は女を完璧なまでに寝取った事実に愉悦を抑えきれず終始ほくそえみながら行為を続けたのだった……

一方、彼氏の方は……

はぁ…はぁっ…リホ…

俺はリホとのハメ撮り画像を見ながらオナニーをしていた。
これでもう何度この画像を見て抜いただろうか。

だが画面の向こうのリホは俺に視覚以上の興奮を与えてくれないばかりか、また触りたい、またエッチしたいという欲望が膨らむばかりだ。

……はぁ…リホ……

オナニーの後、賢者タイムに入りながらリホの事をぼんやりと考えていると、突然LOOEの着信音が鳴る。

ん？あ　リホからだ…

今までリホで抜いていただけに、少し罪悪感を覚えながらリホからのメッセージを見る。

えっ……!!??

俺は送られてきた画像とメッセージを見て、思わず目を疑い固まってしまった。

…ど　どういうことなんだ？
えっ…え…り　リホだよな…これ…？

間違いかと思って確認してみるが、やっぱりリホからのメッセージだし、中出しされながら放心している写真の女の子も間違いなくリホだ。

う…嘘だろ…？リホ…！
なんでだよ…！バイトしてたんじゃなかったのか？！
あれは嘘だったのか？！

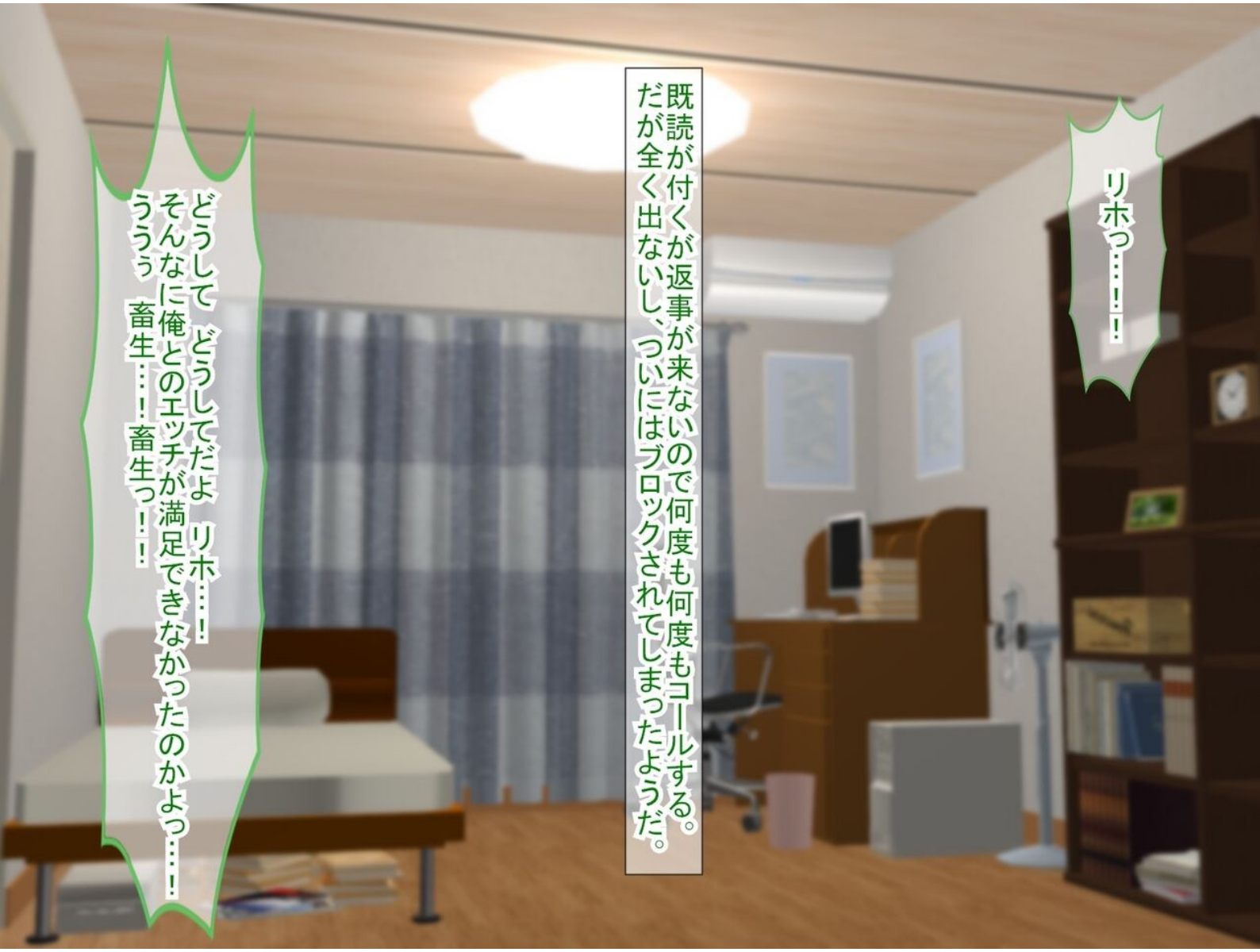
目の前の画像が信じられず、俺は錯乱してしまう。

俺がこれほど錯乱している理由は、リホが俺に隠れて
他の男とヤッていたという事実だけではない。
俺が一度もしたことがない中出しをされ、更に今まで俺が
見たこともない恍惚とした表情をリホが浮かべていたからだ。

そして極めつけは
『あなたのオチンチンは小さいし気持ちよくない』だ。

確かに俺は平均よりも小さいし、リホを満足させられたか自信はなかった。
けどリホは気持ちいいって喘いでくれていたし、俺はそれで満足しているのだと思っていた。

だけど違った。リホは俺の前でこんな表情を浮かべることは一度もなかったし
俺とのエッチは俺を満足させるための演技だったという事実は
この画像を見ればハッキリと分かった。
だからこの文章は嘘偽りなく本当の事なのだろう。


リホっ…！！
既読が付くが返事が来ないので何度も何度もコールする。
だが全く出ないし、ついにはブロックされてしまったようだ。
どうして どうしてだよ リホ…！
そんなに俺とのエッチが満足できなかったのかよっ…！
ううぅ 畜生…！畜生っ！！

あっ　あぁん！
そこぉ！気持ち良いっ！！
あれから少なくない月日が経過した。
推察通りリホは彼氏と破局した。
あの日の言葉通り、完全に俺のものとなったリホは
俺の部屋で俺とのセックスに明け暮れている。
ほら　言ってみろよ
どこが気持ち良いんだ？ん？

おまんこのぉ…！
奥ずんずんって！おちんちんで
突かれるの 良いい！！
今では時間も場所も問わず、いつでも俺が呼び出せば
俺の前で喜んで下半身を晒すような関係にまでになった。
そんなに喘ぎ乱れちゃってよ
お腹の子に響いたら
どうすんだっての

あんっ！でもぉ！
気持ち良くってぇ！！んぁぁぁ！！
そしてリホは妊娠していた。現在8ヶ月目だそうだ。
時期的に完全に堕ちたあの日で妊娠したのだろう。
リホの腹は膨らんでいるが、生憎俺は優しいパパではないので
腹に手や耳を当てて我が子の脈動を感じる…なんてことはしない。

く…出そうだ…中にだすぞ！
あっ❤あぁっ❤あっ❤
出して 中に いっぱい びゅーって…

あっ イク んぁぁぁぁぁぁ♥♥♥
中出しで絶頂するリホ。
その姿はもうじき母親となる女ではなく
ただ性欲に溺れ淫らに男を求めるソレだった。

はぁ…はぁ…きもち よか ったぁ…❤
そりゃ良かったな
射精の余韻を味わいつつ、リホの昇天しきった淫らな姿を見ながら考える。
これからリホとの関係をどうすべきか、だ。普通ならこのままケジメとしてリホと結婚してお腹の子共々世話をするのが道理だ。
しかし、生憎俺には子育てをする気はない。だが、これだけ上玉で相性の良い女を捨てるのはあまりにも惜しいと思うまでになっていた。

……まぁいい 面倒なことは後で考えるか…
そうして俺は今日何度目になるか分からないセックスを始めるのだった……。
END

はぁはぁっ……
妊娠10か月頃になった頃、急に陣痛が起こり始めた。
うぅ…んんんっ……！
もうお昼も過ぎてだいぶ経つけど、痛みの感覚が短くなってきてずっと苦しんでいた。

私は現在、彼の家に住んでいる。
だけど彼は今仕事に行っていて連絡が取れない。
うぅ…もう限界……ここで産まなきゃ…

んぁぁぁぁっ！
そう思った瞬間、急に破水が起こった。

ああぁ……
いいよぉ、くるっ……！

痛いっ…痛いっ…んあぁぁあっ！
ううぁぁぁあああっ…ううううんっ！！
んくぅ…！ううううっっっ！！

痛い 苦しい…辛い…出産ってこんなに大変なんだ…
気を失いそうな痛みに嫌気がさしたけど
彼の赤ちゃんが産めるって思ったら自然と止める気にはならなかった。
うううううんっ！

はぁ はぁ…ううぅんんっ！
おぎゃあっ！
おぎゃあっ！
そして懸命に力を振り絞って頑張っていると
ようやく赤ちゃんが出てきた。

はぁ…はぁ……
う 生まれた…彼との赤ちゃんが……
元気な男の子… 嬉しい…
玉のような赤ちゃんを見て
思わず感動で涙がこみ上げた。
彼が仕事から帰ってきたら
喜んでくれるかなぁ…

最初は彼との身体の相性が良すぎて虜になっていたが、接しているうちに彼の良いところも見えるようになって、私はいつの間にか身体だけでなく心から本当に彼のことが好きになってしまっていた。
それからは私が懇願する形で始まった同棲だけど彼は最近なんとなく私に優しくしてくれるようになった。
最近では私の体を少しだけ気遣ってくれたりもするし私がめげずに彼の為に尽くしたおかげかも
これからは彼の妻として精一杯尽くしたいな…❤